§４　学力検査問題の分析（正答表・分析等）

１　国語

(1) 正答表

一

通し番号	配点	正答率(%)	問		正答例
①	2点	81.2	問一	(1)	げんいん
②	2点	97.0	問二	(1) ④	届（いた）
③	2点	86.6		(2) ⑤	背筋
				(3) ⑥	清潔
				(2) ②	けいこ
				(3) ③	さ（いた）
	3点	86.5	問三	⑦	みずみずしさ
	4点	87.7	問四	⑧	私はこれま
	3点	89.1	問五	⑨	ア
① ⑩	3点	52.2	問六		（正答例）フライパンに油をひいて熱くする。
② ⑪	3点	74.8			（正答例）小さじ一杯のウスターソースを入れる。

二

通し番号	配点	正答率(%)	問		正答例
⑫	2点	95.9	問一	1	めぐ（らせ）
⑬	2点	92.3		2	けいしゃ
⑭	2点	89.6	問二	1	ア
⑮	2点	91.6		2	エ
	6点	83.0	問三		確かな自分の意志
	4点	90.1	問四		ウ
	6点	6.6	問五		（正答例）（大樹の上から眺める眼下の街の）金色の風景に胸がドキドキし、大樹の緑の香りを嗅ぐたびに幸せな気持ちになり、絵を描きたいという気持ちが突き上げてきたこと。
	6点	56.8	問六		ア、オ（完全解答・順不同）
	10点	4.6	問七		（正答例）お母さんが自分のことを大事に思ってくれていることを思い出させ、不安から逃げずにお母さんに自分の夢を伝えて、自分の意志で未来を決めていこうという決意をもたらした。

採点基準

一

問六　1 ①フライパンに油をひくことと熱くすること、②小さじ一杯のウスターソースを入れることが適切に表現されているものを正答とする。
2 表現の稚拙なもの、不十分なもの、表記上の欠陥のあるものについては、各一点を減じる。
3 減点の結果がマイナス点にならないようにする。

二

問五　1 金色の風景に胸がドキドキし、大樹の緑の香りを嗅ぐたびに幸せな気持ちになり、絵を描きたいという気持ちが突き上げてきたことが適切に表現されているものを正答とする。
2 字数については、解答欄の枠内で答えるものとし、それを超えるもの、または、極端に少ないものについては、各一点を減じる。
3 その他については、一 問六の採点基準2、3に準じる。

問七　1 ①（緑の香りが）お母さんが自分のことを大事に思ってくれていることを思い出させたこと、②不安から逃げずにお母さんに自分の夢を伝えて、自分の意志で未来を決めていこうという決意をもたらしたことが適切に表現されているものを正答とし、①を欠いた場合は四点、②を欠いた場合は六点を減じる。
2 その他については、二 問五の採点基準2並びに一 問六の採点基準2、3に準じる。

三

通し番号	配点	正答率(%)	問		正答例
㉑	3点	49.5	問一		ざらん
㉒	3点	85.7	問二		イ
㉓	3点	44.4	問三		エ
㉔	5点	24.4	問四		（正答例①）私は華歆の方が優れていると思います。なぜなら先のことを予測して考えることができる人だからです。 （正答例②）私は華歆の方が優れていると思います。なぜなら自分の身に危険が迫っても一度助けた人は見捨てない人だからです。 （正答例③）私は王朗の方が優れていると思います。なぜなら目の前で助けを求めている人を助けようとする人だからです。

四

通し番号	配点	正答率(%)	問		正答例
㉕	4点	88.2	問一		ア
㉖	5点	61.6		(1)	（正答例）放課後も本の貸し出しをしてほしい
㉗	9点	6.0		(2)	（正答例）私たちも放課後は部活動があり放課後も貸し出しをするのは難しいですが、なるべく多くの生徒に本を読んでほしいと考えているので、ボランティアを募集し毎日二名程度の人数が集まれば放課後の貸し出しを行いたいと思います。

採点基準

三

問四　1 条件1～4に従って適切に表現されているものを正答とする。
2 その他については、一 問六の採点基準2、3に準じる。

四

問二(1)　1 放課後も本の貸し出しをしてほしいことが適切に表現されているものを正答とする。
2 その他については、三 問五の採点基準2並びに一 問六の採点基準2、3に準じる。

(2)　1 ①私たちも放課後は部活動があり放課後の貸し出しは難しいこと、②なるべく多くの生徒に本を読んでほしいと考えていること、③ボランティアを募集し、毎日二名程度集まれば放課後の貸し出しを行いたいことが適切に表現されているものを正答とし、いずれかを欠いた場合は各三点を減じる。
2 その他については、三 問五の採点基準2並びに一 問六の採点基準2、3に準じる。

（注）正答表に示された事項以外のものについては学校の判断による。
（注）①～㉗は通し番号を表す。
（注）通し番号の下の数値は正答率（%）を表す。

(2) 領域別正答率

指導領域	問題番号 一	問題番号 二	問題番号 三	問題番号 四	平均正答率
話すこと・聞くこと	問六	－	－	問一	７１．７％
書くこと	問四	－	－	問二	５１．７％
読むこと	－	問二、問三、問四、問五、問六、問七	問一、問三、問四	－	５４．１％
我が国の言語文化に関する事項	問一、問二、問三、問五	問一	問二	－	８６．７％
全体					６９．１％

(3) 義務教育段階における学習の課題

義務教育段階における学力調査から、北海道の中学生は「読むこと」、「書くこと」について、特に文学的な文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもち、それを表現することに課題がみられる。

○　傾向や課題を踏まえた特徴的な問題　【大問三　問四　（参考）問三】

正答率　24.4%

三　次の文章を読んで、問いに答えなさい。

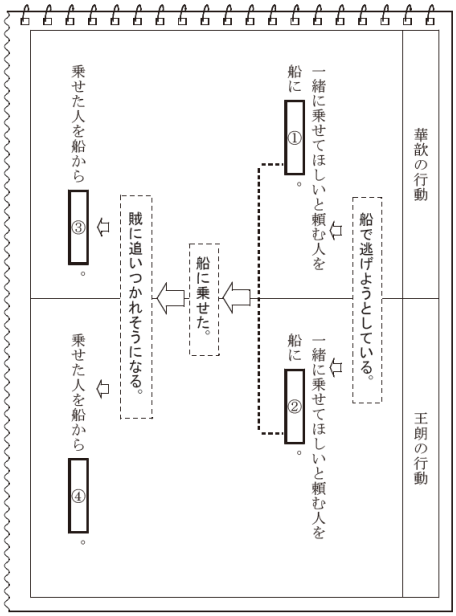
〔これは漢の国の役人であった華歆と王朗が、戦乱から逃れようとしているときの話です。〕

華歆・王朗倶に船に乗りて難を避く。一人依附せんと欲するもの有り。歆すなはち之を難む。[1]朗曰はく、幸ひに尚ほ広し、何為れぞ可ならざらんと。後、賊追ひて至るに王携へし所の人を捨てんと欲す。歆曰はく、本疑ひし所以は、正に此が為のみ。既已に其の自託を納る、寧んぞ急を以て相棄つべけんやと。遂に携拯すること初めの如し。[3]世此を以て華・王の優劣を定む。

（「世説新語」による）

（注）依附せんと欲する――連れて行ってほしいと頼む。　すなはち――ひたすらに。
難む――断る。　疑ひし――ためらった。　自託を納る――頼みを引き受ける。
携拯する――連れて行って助ける。

問三　ある生徒が華歆と王朗の行動を次のようにまとめました。①～④に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。



（略）

問四　――線3「世此を以て華・王の優劣を定む」とありますが、あなたは華歆と王朗のどちらが優れていると考えますか。次の条件1～4にしたがって書きなさい。

条件1　二つの文で書くこと。
条件2　一文目は、二人のうち、どちらが優れているかを書くこと。
条件3　二文目は、あなたが優れていると考える理由を書くこと。
条件4　一文目は「私は」で書き始め、二文目は「からです。」という文末で結ぶこと。

1　出題のねらい

［問題の内容］

文学的な文章に表れているものの見方や考え方を捉え、それについての自分の考えを表現する力をみる問題である。

［解答までのプロセス］

①　問三において、現代語でまとめた図を基に、華歆と王朗の行動をそれぞれ捉える。
②　問四において、華歆と王朗の行動を比較した上で、自分で優劣をつける。
③　条件に従って、一方が優れていると考えた理由を表現する。

［関連する学習指導要領の領域と内容］

第２学年〔思考力、判断力、表現力等〕　Ｃ　読むこと　(1) オ
文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

2　解答の状況と分析

この問題の正答率は 24.4%であった（中間点は正答率に含めない）。受検者にとっては、登場人物二人の行動に優劣をつけるために、それぞれの行動に対して自分の考えをもち、それを条件に従って表現することが難しかったと考えられる。

(4) 中学校における今後の授業の在り方

○　授業実践例

清少納言と自分のものの見方を比較し、自分の考えを表現する

指導事項

イ　現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。　〔知識及び技能〕(3)我が国の言語文化に関する事項、伝統的な言語文化
オ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。　〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)　考えの形成、共有

言語活動例

イ　詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次	①『枕草子』を読み、清少納言と自分の「ものの見方」について比較するとともに、「ものの見方」に対して自分の考えをまとめる課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ② 古文特有の言葉に着目し、語注や現代語訳と対応させて、『枕草子』の第一段と第百四十五段を読む。 ③清少納言のものの見方や考え方について、知ったことをノートに書く。	■（①について）学習の見通しをもたせるために、清少納言と自分の「ものの見方」を比較することと「ものの見方」について自分の考えをもつことが主な学習活動となることを伝える。 ■（②について）「やうやう」「さらなり」「なほ」「をかし」など、清少納言のものの見方を捉える際に注目すべき言葉を挙げ、その意味を確認させる。 ■（③について）自分が気付いた清少納言のものの見方や考え方を、作品の言葉や文を取り上げながら、簡潔に書かせる。
第二次	④第百四十五段「うつくしきもの」に対する自分の「ものの見方」を書き出す。 ⑤「うつくしきもの」に対する清少納言と自分の「ものの見方」を比較し、共通点や相違点について整理する。 ⑥「ものの見方」について考えた内容を、グループで共有する。	■（④⑤について）「うつくしきもの」は、「物」に限定せず、「できごと」や「行動」にも広げて考えさせる。 ■（⑥について）共有するために、内容のまとめ方について例示する。 私は、「うつくしきもの」について～と捉えていたが、清少納言は～と捉えていた。『枕草子』の文章を読んで、「ものの見方」というものは～だと考えた。 ■（⑥について）グループでの共有を通して広がったり深まったりした自分の考えを記録させる。
第三次	⑦グループで共有した考えを踏まえ、清少納言と自分の「ものの見方」について比較し、「ものの見方」に対する自分の考えをまとめる。	■（⑦について）⑥で記録した内容を踏まえ、文章にする際の条件を設定し、自分の考えを表現させる。

文章を読んで、「ものの見方」について考えを広げ、深める。

○　授業づくりのポイント

この単元では、時代の違いや個人の感じ方によって差異が出やすい「うつくしきもの」について、作者と自分の「ものの見方」の比較（学習活動⑤）を行った上で、他者と自分の「ものの見方」を比較（学習活動⑥）する活動を行った。このように、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと比較したりすることにより、物事に対する新たな視点をもち、自分の考えを広げたり深めたりすることができるような学習活動の一層の充実が求められる。

(5) 高等学校における指導の在り方

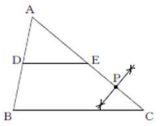
高等学校では、科目「言語文化」において、言語活動例として「我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする」ことが示されており、「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと」という「読むこと」の学習活動の一層の充実が求められる。

その際、中学校における「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること」及び「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」の指導事項を、高等学校における「古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること」及び「古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する」の指導事項と関連付けることが考えられる。

2　数学

(1) 正答表

1

問題番号	正答	配点	通し番号	正答率(%)	正答	配点	通し番号	正答率(%)	正答	配点	通し番号	正答率(%)
問1	(1)　-32	3	①	98.0	(2)　22	3	②	90.0	(3)　$6\sqrt{5}$	3	③	89.2
問2	7									4	④	84.3
問3	A（4，0）									4	⑤	72.2
問4	$x=3$，$y=2$									6	⑥	69.4
問5	$x \leqq 10$									4	⑦	60.4
問6	（正答例） 									6	⑧	50.7

2

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)
問1	(1)	8.6 秒	4	⑨	66.3
	(2)	イ	4	⑩	74.3
問2	ア	8	8	⑪	21.4
	イ	7			
	ウ	B組			

3

問題番号			正答	配点	通し番号	正答率(%)
問1			$a=3$	4	⑫	83.7
問2	(1)	X	$\frac{1}{2}$	4	⑬	15.4
		Y	ウ　Z　1			
	(2)		（説　明） （正答例） △OABはOA＝OBの直角二等辺三角形である。 また，ABと y 軸の交点をCとすると， △OACはCO＝CAの直角二等辺三角形となる。……① ここで，点A（t，at^2）より，……② $at^2=t$ ……③ $t>0$ より， $at=1$ と表せるので，a と t の積は常に一定であり，一定な値は1である。	8	⑭	5.2

問題番号	採点基準
1 問4	・いずれか一方が正答の場合は3点とする。
1 問5	・$10 \geqq x$ も正答とする。
2 問2	・ア，イの配点は各3点，ウの配点は2点とする。 ・ウは，ア，イがともに正答の場合のみ正答とする。
3 問2(1)	・Xの配点は2点とする。 ・Xは0.5も正答とする。 ・Y，Zは完全解答とし，配点は2点とする。なお，Y，ZはXが正答の場合のみ正答とする。
3 問2(2)	・論理的に正しい場合は正答とする。なお，(1)がすべて正答の場合のみ正答とする。 ・①，②が導かれている場合はそれぞれ2点とする。 ・③まで導かれている場合は6点とする。

4

問題番号			正答	配点	通し番号	正答率(%)
問1			115 度	4	⑮	70.0
問2	(1)	ア	BDC	4	⑯	42.0
		イ	BFE　ウ　BCD			
	(2)		（証　明） （正答例） △BFEと△BCDにおいて， 仮定より， ∠EBF＝∠DBC ……① また，△BCEはBC＝BEの二等辺三角形であり， 線分BFは頂角の二等分線であるから， ∠BFE＝90° ……② ②と仮定より， ∠BFE＝∠BCD ……③ ①，③より，対応する2組の角がそれぞれ等しいので， △BFE∽△BCD ……④ よって，対応する角はそれぞれ等しいので， ∠BEF＝∠BDC ……⑤ したがって， 2点D，Eが直線BCについて同じ側にあり， ∠BEC＝∠BDCとなるので， 4点B，C，D，Eが1つの円周上にある。	8	⑰	8.5

問題番号	採点基準
4 問2(1)	・論理的に正しい場合は正答とする。 ・アの配点は2点とする。 ・イ，ウは順不同で完全解答とし，配点は2点とする。
4 問2(2)	・論理的に正しい場合は正答とする。 ・①が導かれている場合は2点とする。 ・②から③が導かれている場合は3点とする。 （②が導かれている場合は2点とする。） ・④まで導かれている場合は6点とする。 ・⑤まで導かれている場合は7点とする。
5 問1(2)	・論理的に正しい場合は正答とする。 ・①が導かれている場合は2点とする。 ・②まで導かれている場合は3点とする。 ・③まで導かれている場合は4点とする。 ・④まで導かれている場合は6点とする。

5

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)
問1	(1)	$4\sqrt{3}$ cm	4	⑱	65.5
	(2)	（計　算） （正答例） △OABは直角三角形であるから， $OB^2=4^2+(4\sqrt{2})^2=48$ OB＞0より，$OB=4\sqrt{3}$ OD：OB＝OA：OCより， $OD:4\sqrt{3}=4:4\sqrt{2}$ であるから，$OD=2\sqrt{6}$ ……① また，△OBDは直角三角形であるから， $BD^2=(4\sqrt{3})^2+(2\sqrt{6})^2=72$ BD＞0より，$BD=6\sqrt{2}$ ……② ここで，長方形ODEBの対角線OE，BDは， それぞれの中点で交わるから， $BH=\frac{1}{2}BD=3\sqrt{2}$ ……③ また，$AH=AB-BH=\sqrt{2}$ ……④ よって，$\triangle OAH=\frac{1}{2}\times OA\times AH=2\sqrt{2}$ （答）$2\sqrt{2}$ cm²	7	⑲	11.8
問2	(1)	（n の値） $n=2,\ 3,\ 4,\ 6,\ 8,\ 9,\ 10,\ 12$ （求め方） （正答例） 102を素因数分解すると，$102=2\times3\times17$ ……① $\sqrt{102n}$ が $a\sqrt{b}$ の形で表すことができるのは， $102n$ が整数の2乗を因数に含むときである。……② $2\leqq n\leqq12$ より，$n=2,\ 3,\ 4,\ 6,\ 8,\ 9,\ 10,\ 12$	6	⑳	4.0
	(2)	$\frac{2}{3}$	2	㉑	6.3

問題番号	採点基準
5 問2(1)	・論理的に正しい場合は正答とする。 ・（n の値）が導かれている場合は2点とする。 ・①，②が導かれている場合はそれぞれ2点とする。 ・②は，$\sqrt{102n}$ が $a\sqrt{b}$ の形で表すことができるときの説明が書かれていればよい。
5 問2(2)	・既約分数でない場合は1点とする。

（注）　正答表に示された事項以外のものについては，学校の判断による。ただし，中間点の配点は，上記の採点基準以外は認めない。

(2) 領域別正答率

指　導　領　域	問　題　番　号					平均正答率
	1	2	3	4	5	
数と式	問１、問２、問４、問５	－	－	－	問２(1)	７０．８％
図形	問６	－	問２(注1)	問１、問２	問１	３３．６％
関数	問３	－	問１、問２(注1)	－	－	４４．１％
データの活用	－	問１、問２	－	－	問２(2)	４２．１％
全　　体						５１．８％

（注１）　問題によっては、指導領域が重複している場合がある。

(3) 義務教育段階における学習の課題

義務教育段階における学力調査等から、北海道の中学生には、データから読み取った内容を説明したり、判断したりすることに課題がみられる。

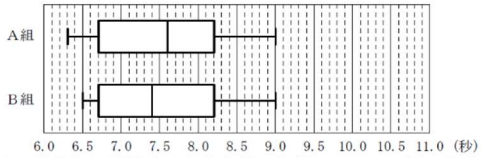
○　傾向や課題を踏まえた特徴的な問題　【大問２　問２】

正答率　21.4%

2　春奈さんたちの中学校では，３年生のＡ組30人全員と，Ｂ組30人全員の50m走の記録を調査しました。

問２　Ａ組，Ｂ組には，運動部に所属する生徒がそれぞれ15人います。図２は，Ａ組，Ｂ組の運動部に所属する生徒全員の記録を，箱ひげ図にまとめたものです。

図２



春奈さんたちは，運動部に所属する生徒全員の記録について，図２を見て話し合っています。［ア］，［イ］に当てはまる数を，それぞれ書きなさい。

また，［ウ］に当てはまる言葉を，下線部〜〜〜の答えとなるように書きなさい。

春奈さん　「Ａ組，Ｂ組の運動部に所属する生徒では，Ａ組とＢ組のどちらに速い人が多いのかな。」
ゆうさん　「どうやって比べたらいいのかな。何か基準があるといいよね。」
春奈さん　「例えば，平均値を基準にしたらどうかな。先生，平均値は何秒でしたか。」
先生　「この中学校の運動部に所属する生徒の平均値は，7.5秒でしたよ。」
ゆうさん　「それなら，7.5秒より速い人は，Ａ組とＢ組のどちらの方が多いのか考えてみよう。」
春奈さん　「Ｂ組の中央値は7.4秒だから，Ｂ組に7.5秒より速い人は，少なくても［ア］人いるよね。」
ゆうさん　「Ａ組の中央値は7.6秒だから，Ａ組に7.5秒より速い人は，最も多くて［イ］人と考えられるね。」
春奈さん　「つまり，7.5秒より速い人は，［ウ］の方が多いと言えるね。」

１　出題のねらい

［問題の内容］

箱ひげ図を用いて、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断する力をみる問題である。

［解答までのプロセス］

①　それぞれの箱ひげ図において、定められた基準値（7.5秒）と中央値を比較する。

②　基準値より速い人の人数を比較し、どちらの集団に基準値より速い人が多いかを判断する。

［関連する中学校学習指導要領の領域と内容］

第２学年　Ｄ　データの活用

(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ) 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。

２　解答の状況と分析

この問題の正答率は21.4%であった（ア・イ・ウは完全解答）。受検者にとっては、会話文から判断の基準となる情報を正確に読み取ることに加え、箱ひげ図からデータの傾向を的確に捉え、比較し、判断することが難しかったと考えられる。

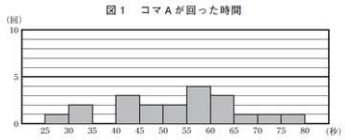
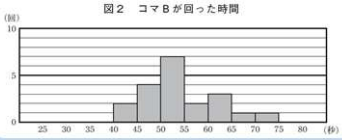
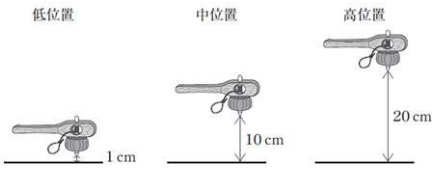
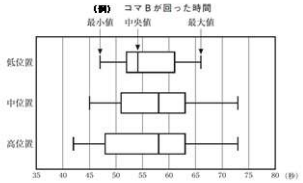
(4) 中学校における今後の授業の在り方

○　授業実践例 ※

D　データの活用　**【中学校　第２学年　数学】**

「どちらのコマを使うか判断しよう」
～データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する～

指導事項	**(1)ア(ア)　四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解すること。（知識及び技能）** **(1)イ(ア)　四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。（思考力・判断力・表現力等）**
数学的活動	ア　日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動 ウ　数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
日常の事象を数理的に捉える過程	①　コマ回し大会で、コマＡとコマＢのうち、どちらのコマを使った方が長い時間回すことができるか判断するため、集めるデータの種類や集め方の計画を立てる。 ②　データを収集し、集めたデータを表に整理する。	■　問題発見、計画、データ収集、分析、結論の学習過程を生徒が自ら遂行できるよう、日常の事象を題材とした問題などを取り上げるなど、生徒への働きかけを工夫する。
数理的に捉えた問題を数学的に表現・処理し、解決する過程	③　収集したデータをヒストグラムに整理する。 ④　データの傾向を捉え、コマＡとコマＢのどちらを選ぶかを判断し、理由を説明し合う。  図１　コマＡが回った時間  図２　コマＢが回った時間	■　収集したデータは、コンピュータなどを利用して整理し、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにする。 ■　生徒の判断が適切かどうかについて批判的に考察できるよう、理由を説明し合う場面を設定する。
解決の過程や結果を振り返って考察する過程	⑤　④の過程を振り返りながら、データの散らばりとコマを回す高さの関係に着目し、どの高さからコマを回すとより長い時間回るのかについて考える。  ⑥　低位置、中位置、高位置の三つの場合に分け、コマが回る時間のデータを集める。 ⑦　低位置、中位置、高位置の三つの場合についての箱ひげ図を作成し、データの傾向を捉え、どの位置から回すとよいかを判断し、理由を説明し合う。	■　④の振り返りを通じて生徒に自ら新たな問題を見いださせ、複数の集団のデータの傾向を比較して読み取る場面を設定する。  ■　データの傾向を捉える場合、箱ひげ図のみを用いて説明することにより分布の形などの情報が失われることもあるので、必要に応じてヒストグラムなどと合わせて用いる有用性に気付くことができるよう、⑦の活動を振り返る過程を位置付ける。

○　**授業づくりのポイント**

この単元では、四分位範囲や箱ひげ図を学習することで、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、批判的に考察して判断する学習場面を設定した。このように、日常生活や社会の事象を考察する活動を通して、解決の過程や結果を批判的に考察し判断することや、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明すること、数学的に表現したことを事象に即して解釈する力を身に付けさせる学習活動の一層の充実が求められる。

(5) 高等学校における指導の在り方

高等学校では、日常生活や社会における具体的な問題に対して、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法を用いて分析を行い、問題に対する結論をまとめて表現したり、さらなる課題や活動全体の改善点を見いだしたりする統計的探究プロセスを通して、データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力を身に付けられるようにする。また、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を身に付けさせる学習活動の一層の充実が求められる。

※「令和４年度全国学力・学習状況調査報告書　中学校数学」（国立教育政策研究所）
（https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/middle_math.html）を加工して作成